１．プログラムの問題点・課題点

①大学院修士課程の学生が半年日本を出ること自体の難しさ。必要単位取得、就職活動などの課題があり、6 ヶ月をあけることは難しい。
②東南アジアの大学と日本の大学の学期のちがいによる留学時期の調整の難しさ。東南アジアではだいたい 8 月・9 月始まりで 12 月・1 月終了の学期、日本では 2 学期をお互い留学時期としているが、東南アジアの学生たちは 2 学期を費やさないと日本に半年来れない。
③英語による科目提供の少なさ。JASSO の奨学金受給の条件として 1 学期 14 単位の取得が課されている。大学院で 1 学期 14 単位分の授業を英語のみで提供するのは今すぐにはできない。
③海外の提携大学には予算配分できない会計ルール：海外の提携大学にも相当の負担が発生しているにも関わらず、日本側は事務補佐員・特任教員を採用できるが、海外はそれができない。かなり負担を強いることになってしまう。
④高額な教員立て替え払いの発生。派遣する学生の下宿代、招聘する教員等の旅費・謝金など、プロジェクト規模が大きいだけに高額の立て替え払いが発生しており、負担が重い。

２．グッドプラクティスの事例

①日本側で受け入れる留学生のための短期（半年）アパート借り上げ。生活協同組合が、基本的備品付き学生アパートを敷金・礼金なしで半年間分用意し、大学との契約において短期でくる留学生のために提供するという方式をとっている。
②インフォーマルな英語指導の充実化。毎週金曜日昼食時に English Cafe を開催したり、3 回受講で完成する英語作文教室を開催している。
③日本企業と東南アジアの大学生の就職活動を結びつけるため、シンガポールにてジョブ・フェア開催のイニシャティブをとっている。（6 月開催）